



特別養護老人ホーム サンアップルグループ

サンアップルホーム  
開園26周年記念日

7月1日(日)は、特別養護老人ホーム『サンアップルホーム』の26周年(昭和61年開設)「開園記念日」でした。

さわやかな心地よい風と晴天に恵まれ、園内の中庭で全利用者さん・職員が集まり、開園記念を共に祝いました。イベントとして、気仙沼港から捕れたての新鮮な鰹を取り寄せ、厨房職員による「大鰹の解体の実演と、わらの炎で一気に焼き上げた鰹のたたき作り」を準備しました。わら焼きの鰹のたたきは、わらの香りで今までにない風味と、新鮮でやわらかな味であり、笑顔も弾む昼食会となりました。

「目に青葉 山時鳥 (ホトトギス) 初松魚 (かつお)」  
(山口素堂の俳句)  
初鰹の時期は、春から初夏にかけてになります。目には青葉、耳でほととぎす、舌で初鰹。江戸時代では、匂を感じ



る「粹」の観点だったそうです。

『サンアップルホーム』では、今後もよりいっそう利用者さんに楽しく生活して頂けるような「粹なほからい」をしていきたいと思えます。

ちよつとだけ鳥の話

ホトトギスは渡り鳥で、田植えの時期に飛来します。その鳴き声は「テッペンカケタカ」「特許許可局」と聞こえるとか・

ちよつとだけ美味しい話

鰹のたたきというと、ポン酢しゅうゆのイメージがあるかもしれませんが、非常に新鮮な鰹なら、塩でいただく事をおすすめします。風味がぐつと引き立ちます。

障害者支援施設 旭光園

通所利用で

頑張っています

旭光園では、働くことを目的とした、就労継続支援B型事業を行っています。

現在、通所利用されている方は22名で、皆あいさつもさわやかに元気に通所しています。『福祉ホームさわら』から7名そのほか15名は自宅やグループホームから、自転車、自家用車、路線バスを利用し通所しています。9・00からの就業時間10分前には来園し、作業準備に入っている方もいます。

通所利用されている方々は、主力メンバーとして、一人ひとり自分の作業に誇りと自信を持って取り組んでいます。



その中で、通所利用23年のTさんは、以前から旭光園通所利用されていた友人の紹介で当園の利用を始めたそうです。同じ障がいを持った人が生きいきと働いていることに、驚きと勇気を貰ったそうです。ラベル印刷の作業をやることになり、作業の手順や微妙な色合わせ、寸法合わせ、柄あわせ等非常に細やかな作業に苦戦しながらもやりがいを見つけたと話します。「自分の仕事に責任を持ち、自信を持って働ける場所があることに喜びを感じている」と話していました。

今後共、「働く場の提供」を大事な視点に置きながら活動していきま

障害者支援施設 拓光園グループ

新しい我が家  
ケアホーム建設中

拓光園では新たな地域生活のために弘前市の八幡やわたにケアホームを2棟建設中です。

昨年から土地の造成工事を行い、雪解けを待つて建設を着工しました。7月11日には、理事長、園長、及び工事関係者が参列し、上棟式が執り行われました。建設の安全を誓い合い、また何よりも住む人が安心できる家造りを祈念していました。



八幡やわたは旧岩木町の商店街から近くバス路線沿いにあります。当園では今までも地域のケアホームにて近隣の方々から温かいご理解を頂き、利用者さんは快適な生活を送ることができていました。今度は八幡地区の住民の一員として地域の方々と共に生活していきたいと考えています。拓光園のケアホームは、弥生地区にある「やよい住宅」に加えてこれで3棟になります。新しいケアホームは今年秋口に完成の予定です。

拓心館グループ

アップル馬拉ソンに  
向けて!

今年の春から宿泊型『通勤寮拓心館』のサービスを利用していらっしゃる鎌田伊織いおりさんは、10月7日に開催される第10回「弘前・白神アップル馬拉ソン」の10kmコースに参加予定です。

運動することが大好きなスポーツマンで、ソフトボール大会や陸上競技大会など積極的に参加しています。

50分台のタイムで完走するのが目標とのことで、毎日30分間『通勤寮拓心館』周辺のジョギングと、入浴後のストレッチを欠かさず行なっています。また、新しいジョギングシューズを購入し、練習にもより一層力が入っています。オーバーワークが心配されますが、陸上競技経験者の支援員が、練習のプログラムを組み、疲労により仕事に影響が出ないよう体調管理を心がけています。

就労先である『平成の家』では、フル馬拉ソンへ参加される方が3名おり、伊織さんも触発され参加するきっかけになりました。行く行くは同僚の方たちと同じように、フル馬拉ソンのコースを走りたいという目

標があり、張り切つてトレーニングに励んでいます。



